

平成 28 年度 十日町市まちひとしごと創生総合戦略 総合評価

■基本目標 I : 安定した就業の場を増やす		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
<p>A (H27 B+)</p>	<p>基本目標 I「安定した就業の場を増やす」に関連する事業は、当初設定した KPI を概ね達成できており、高く評価できる。</p> <p>「農業の競争力強化」事業に関しては、人材育成面、6 次産業化の両面から望ましい方向性で展開されていると評価できる。ここにおいて 6 次産業化の評価に際しては、農業競争力 KPI だけでなく、当該基本目標の他の事業である「地場産業の活性化」「新規創業の支援」の成果を加味して達成度を総合的に評価した。</p> <p>「地場産業の活性化」に関しては、元々の KPI 数値の是非が問われるが、目標数値に対しては概ね達成がなされている。「地元企業の振興」に関しては、目標数値の達成がなされていないが、個別施策評価に記載のとおり「36 人の新規雇用」に繋がる結果に連結しており、実質的成果面からは評価できよう。今後五輪東京開催に向けての波及効果を見込んだ活動として、埼玉県和光市との友好関係の継続的推進は評価できる。</p> <p>「新規創業の支援」に関しては、経営コーディネーター等の活用やビジネスコンテスト「トオコン」の事業ブランド化の構築を通しての創業件数 10 件は、今後のさらなる多様な起業に可能性を提示してくれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標 I の推進会議総括の中で「和光市との友好関係の継続的推進は評価できる」とあるが、この辺りを、もう少しこうしていこうかという部分で見た時に、どんな感じを受けているのかという説明を頂きたい。 ・この活動に関しては、確かに費用対効果と同時に高く評価しているのは、総合的な観点から 6 次産業化に貢献して頂けるだろうということ。実際、和光市にヒアリングを取らせて頂いており、専属の従業員を採用することができ、年収ベースの低い層に対しては門前払いをくらっているけれども、徐々にではあるが中流以上の層に対してはいい引きを頂いているので、これが着実に活動として定着しつつある。十日町との交流の促進になればと強く期待を持っている。 ・目標数値そのものの見直しについて、やはりなされるべきと思う。例えば、資料 3 の 1 ページ目「20~64 歳における就業率」について、就職難、逆に人が足りなくなっている時代に果たしてこの数値はこの形になるのだろうか。あまり目標値そのものの移動がない形だが、当然働き手がなくなっている。外国人の研修者を受け入れるのが 3 年から 5 年までに延期をしてくると、国内労働者がもう少し就業率が高まるのではないかと。しっかりと予測をし、数値は見直しても良いのではないかと。 ・生産労働人口 20 歳~64 歳の設定には賛成するが、就業率はサービス業を中心に非常に人が足りない現象が起こっている。またメーカーも人取り合戦となっており、都会を中心に現状が現れはじめています。そういったところも加味し、もう少し産業別・層別にしてもよいのではないかと。一緒に 85.2% の目標設定ではなく、サービス業、メーカー、第一次産業別にしたほうが妥当性の高い目標数値になるのではないかと。社会情勢はもう少し逼迫している状況であり、売り手市場になってきている。今回は加味した内容にして欲しい。

1 農業の競争力強化		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A (H27 A)	(1)農業の担い手育成等、(2)6次産業化では、KPI(重要行政評価指数)である「認定農業者」、「新規就農者」、「6次産業等支援事業者取組者」をそれぞれにおいて、目標値に対する実績値が順調に推移しており、目標達成に向けて着実に進んでいる。	なし
2 地場産業の活性化		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A (H27 B)	(1)地元企業の振興は KPI 目標値に及ばなかったものの、36人の新規雇用に繋がる結果も出ており、目標値に向けて概ね進んでいる。また、(2)きもの産業の継承の施策では、目標値を上回り着実に進んでいる。(3)十日町産品の販売力強化では、地域商社を活用した販路拡大や販売力強化に向けた事業が本格稼働により実績が出始めていることから、今後さらなる効果が期待できる。	なし
3 新規創業の支援		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A (H27 B)	(1)(2)新規創業件数は H28 年度の目標値を達成していることから、目標達成に向けて着実に進んでいる。また商工会議所などの協力を得ながら、今後、新規創業支援のさらなる充実を図り、目標値の引き上げも検討していく。	なし

■基本目標Ⅱ：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
<p style="text-align: center;">B+ (H27 B)</p>	<p>基本目標Ⅱ「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に関連する事業は、当初設定したKPIを概ね達成できており、評価できる。</p> <p>当該基本目標に関する事業は、他の基本目標Ⅰ、Ⅲ、Ⅳの成否も重要な影響因として関与するため、トータルな街づくりの視点からじっくりと目標を策定し、これの実現化に向けて持続可能なプロセスの具現化が重要である。さらに当該基本目標Ⅱであげられている各施策は独立に進められるのではなく、事業内的関係性を考慮しつつ相乗効果（シナジー）を醸成する活動が望まれる。</p> <p>「男女の出会いや結婚の支援」事業に関しては、成婚カップル数、結婚相談登録者数とも目標数値を達成しており、高く評価できる。さらに近隣小千谷市との広域連携からの成果把握は重要である。ただ、冒頭でも提示しているとおりに、出会いや結婚といった内容は、単なる数値目標のみに偏向するのではなく、質的な視点（ヒアリングの実施等）を加味したトータル面からの評価が今後重要となろう。</p> <p>「出産・子育て環境の整備・充実」事業に関しては、サービス面での充実（利用料金の簡素化）及び制度面からの支援ニーズへの対応は、評価できる。</p> <p>「仕事と家庭の両立の実現」事業に関しては、数値目標の視点からはほぼ達成されており評価できる。ただ、KPIからの達成基準のみに偏向するのではなく、そもそもワークライフバランスの意味そのものを山間エリアである十日町市に引き戻して再解釈する必要性があるだろう。</p>	<p>・B+という評価の+の説明をもう一度お願いしたい。</p>
<p>1 男女の出会いや結婚の支援</p>		
施策評価	施策総括	委員からの意見
<p style="text-align: center;">A (H27 A)</p>	<p>(1)男女の出会いや結婚を後押しする環境づくりでは、成婚したカップル数は目標値に向けて着実に進んでいる。また結婚相談登録者においても、前年度から1.4倍伸びていることから、目標値に向けて着実に進んでいる。</p> <p>ハッピー婚シェルジュなどの出会</p>	<p style="text-align: center;">なし</p>

	<p>いの場合事業においては、参加者への事前レクチャーを充実させることで、異性との付き合い方や結婚に対する意識を醸成し、また 28 年度は小千谷市との新たな広域連携による成果も出ていることから、今後も目標達成に向けた取り組みを強化していく。</p>	
2 出産・子育て環境の整備・充実		
施策評価	施策総括	委員からの意見
<p>B (H27 B)</p>	<p>(1)保育サービスや子育て環境の充実では、ファミリーサポートセンター登録数は H28 目標値をクリアし、着実に伸びている。利用料金を統一したこともあり、引き続き利便性の向上を図っていく。ハード面では保育園の施設改修や修繕が計画的に進められている。</p> <p>(2)出産・子育て支援の支援制度の充実では、H28 単年度の合計特殊出生率は 1.78%であったが、目標値を下回る結果となった。若者の移住定住と結婚促進を進めるとともに、子育て応援・子ども医療費助成のほか、不妊治療費助成の拡充・妊婦健康診査の助成などによる複合的な支援策の充実を図りながら、引き続き取り組みを進める。</p>	<p>なし</p>
3 仕事と家庭の両立の実現		
施策評価	施策総括	委員からの意見
<p>B (H27 C)</p>	<p>(1)ハッピーパートナー企業登録数は H28 年度の目標値は下回ったものの、達成目標に向けて概ね進んでいる。また一方で、男女協働参画においては、市の各計画や審議会等への委員などにおける女性の登用率が低く推移していることから、今後も一層の働きかけが必要である。</p>	<p>なし</p>

■基本目標Ⅲ：地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
<p style="text-align: center;">B⁺ (H27 A⁺)</p>	<p>基本目標Ⅲ「地域の魅力を更に磨き、選ばれるまち」に関連する事業は、昨年度評価が高い事業であった。しかし、今年度はKPIに対する達成基準からは、十分な事業遂行が実現したとは言いがたい。昨年度実績において、都市部からの移住定住、地域の魅力を活かした交流の促進、郷土愛の育成・十日町ファンの拡大のいずれの施策も目標値に対して十分な達成が出来ていたことを勘案すると、持続的な取り組みとして定着されていないのか、あるいはKPI そのものに問題があるのかをしっかりと検討すべきであろう。</p> <p>「都市部からの移住促進」事業では、今後移住理由の把握から（移住元との相互関係の向上を考慮しつつ）移住促進策のさらなる改善につなげられる体制づくりを行うことが望まれる。また、地域おこし協力隊等活動支援と十日町定住はそもそも性格を異にするものであり、活動参加＝定住という文脈に問題はなかろうか。当該のような活動は、定住を強化するのではなく、広く他地域とのネットワーク構築につなげていく活動が望まれる。</p> <p>「地域の魅力を活かした活動の促進」事業ではでKPI未達成が目立つ。数値目標そのものの再検討及び質的側面からの補完検討が望まれる。大地の芸術祭という全国的にもトップクラスの国際芸術祭への準備期間としての表面化してこなかった現象（地域の機運の醸成）等の把握も大切にしてほしい。</p> <p>「郷土愛の育成・十日町ファンの拡大」事業においては、KPI数値そのものの有意性が問われる。例えば小学生に対する指標は前年度97.2%達成実績に照らして当該年度は97.3%となっているが、ほぼ100%達成が目標基準となっており、そもそも現実的指標であるとは言い難い。</p> <p>大地の芸術祭地元サポーターが増加傾向にあるのは、好ましい成果傾向を示していると評価できる。</p>	

1 都市部からの移住定住		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B (H27 A)	<p>(1)移住・定住の促進は市の重点施策であり、H27 から新たな移住定住策に取り組んでいるが、目標値を下回った。しかしながら、移住相談及び案内数は増加傾向にあることから、目標達成に向けて着実に進んでおり、今後も引き続き積極的に施策を進め、UIJ ターンの者の増加を図る。</p> <p>(2)地域おこし協力隊の定住率は全国平均(48%)を大きく上回る7割近くに及ぶが、目標値を下回った。しかしながら、退任後は地域の資源を活かすNPOの設立など、様々な分野での起業や就業により地域で活躍していることから、今後も積極的な任用を推進していく。</p>	なし
2 地域の魅力を活かした交流の促進		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B (H27 A)	<p>(1)「豪雪」など地域特有の資源を生かしたインバウンド誘客は、地方創生交付金事業を活用し、着実に進んでいる。</p> <p>(3)アウトドアを生かした田舎体験の参加者数も増加傾向にあり、目標達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(4)2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせたソフト・ハード両面の事業が概ね進んでいる。スポーツ合宿数は施設改修の影響でH28目標を下回るが、誘致するターゲットの課題を整理・改善し、誘致促進に取り組んでいく。</p> <p>(5)大地の芸術祭では、通年誘客に向けて積極的に取り組むことで地域の機運も醸成されており、また交流人口も増加していることから、第7回展の目標達成に向かって進んでいる。</p>	<p>・外国人観光客の関係だが、11ページの27年度の実績が2,629泊であったが、目標が3,500泊である。これはキャパ等を考えてもあまりにも高い数値過ぎないか。これは議論のあるところと考える。2つの例を挙げたが、その他についてもその時代に沿った経済環境や人口構造にあわせた見直しは、総合評価を適切に反映させるにはその必要があるのではないか。</p> <p>・外国人観光客の誘致については、ただ宿泊数を上げることを目標にするのではなく、キャパをアップできるような目標数値が当然あって、そこでサービスおもてなしができることが整い、はじめて宿泊数が増大していく。キャパの目標数値があってもよいのではないか。</p> <p>今後、KPIを数値化することによって、目標数値が明確になればやる気が起こる。是非勘案して欲しいと考える。</p>

3 郷土愛の育成・十日町ファンの拡大		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B (H27 A)	<p>(1)ふるさとを愛する地域教育の充実では、住む地域や十日町を好きと思う児童生徒数は目標値を下回るが、依然として高い数値であり、目標値達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(2)郷人会参加者数は目標値を下回ったが、当市を応援してくれる外部の力は年々増加傾向にある。</p> <p>(3)大地の芸術祭地元サポーターは増加傾向にあり、市民参加によるまちづくりが進んでいる。一方で、第7回展に向けては多くのサポーターによる支援が求められることから、さらなる参加促進に取り組む必要がある。</p>	<p>「ふるさとを愛する地域教育の充実」の中で、この度、10月13日に「まちの産業発見塾」で金融団として中学生の説明に参加させて頂いた。アンケートの集計が後日届き、「十日町にいろいろな仕事があることが分かった。」「おもしろそうなブースがあったのでまた来たい。」「楽しかった。」などのたくさんの意見があった。県内で、こういったことをしている市町村は、そんなに多くないと思う。非常によい企画だと思っているので、来年以降も続けて頂きたいと思っている。実践で教えると楽しそうに学んでいたという記憶があるので、私はB+でもよいと思っている。</p>

■基本目標Ⅳ：安心して暮らせる時代に合った地域をつくる		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
B (H27 B)	<p>基本目標Ⅳ「安心して暮らせる時代に合った地域づくり」に関連する事業は、少子高齢化・長寿化社会にあって持続可能な地域づくりの実現には不可欠である。</p> <p>環境に優しいエネルギーへの転換やごみの減量化と再資源化促進は、計画段階から社会システムとして徐々に成果が具現化する段階に来たと言えよう。今後は、将来的展望のもと費用対効果も十分に加味した現実的な観点からの事業展開が望まれる。</p> <p>安心して暮らせる地域づくりのために、地域特性でもある克雪対策に対してアンケート調査が経年的に実施されていることは意義がある。その結果によると市民評価は、H28と比較して下降（満足度3.1ポイント減）していることが確認された。今後、アンケート調査の精度を改善しつつ、下降傾向の原因を探求したい。安心して暮らせる市民ニーズの把握法の向上が望まれる。</p>	

1 時代にあった地域づくり		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B (H27 B)	<p>(1) 木質バイオマスボイラー及び小型バイナリー発電機を2施設に導入、さらに、一般家庭への助成対象に地中熱を新たに加えるなど地域資源を活用したエネルギー創出が進んでいる。また、JR 東日本宮中取水ダムから放流される維持流量を活用した水力発電など新たな計画策定に取り組んでいる。</p> <p>(2) 一般廃棄物（ゴミ）の排出量は前年実績から大半な減量化が進んでおり、ごみ分別アプリの「エコラビ」の利用促進による、意識啓発にも積極的に取り組んだ成果が表れてきている。</p> <p>また、Jクレジット制度を活用した民間企業との取引により、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減などにも取り組み、環境にやさしい循環型のまちづくりが進めれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の自然エネルギーの部分、目標値 20,000 メガワットの数字の中身を教えてほしい。
2 安心して暮らせる地域づくり		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B (H27 A)	<p>(1) 克雪対策に対する市民満足度は、目標値に対して概ね進んでいるが、豪雪地域の暮らしを守る政策は重要政策と位置づけられることから、今後も市民ニーズや課題改善に取り組んでいく。</p> <p>(2) 小さな拠点の形成に向けた、仙田地域の住民主体による取り組みは、生活圏を維持するための地域コミュニティ形成における一つのモデルとなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 克雪対策に対する市民満足度はどういう状況から 4.4 ポイント上昇したのか。